

転倒防止新聞

発行：2020.10
秋田労働局
健康安全課
秋田市山王7-1-3
TEL:018-862-6683

取り組んでいます!! 我が社の転倒防止対策

転倒防止策を進める事業場増加中

「見える化」対策を実施

「労災」が発生すると、労働基準監督署に対する報告として「労働者死傷病報告」を提出し、労働災害の内容によっては、再発防止対策の提出を求められる場合があります。これは転倒災害が発生した場合も同様です。各事業場において発生した転倒災害には、様々なケースがあり、比例して再発防止対策も様々あります。それぞれ工夫した再発防止対策が報告されており、特に働く方々が見ているわかる「見える化」対策を進めている事例が報告されており、紙面で紹介いたします。

本線の効果が発揮

もう一つの事例として、玄関脇の駐車場に駐車用の白線がなかったため、玄関前を通行する際、駐車車両をよけて花壇を跨いで通行していたため、ブロックにつまずきケガをした事例ですが、白線を引いて歩道を確保した対策です。一本の線が転倒防止につながる場合もあります。普段あたり前になっている光景や環境も、転倒防止の目線で見直してみてもいかがでしょうか？

労働者の声を反映させた事例

社会福祉施設内で発生した転倒災害で屋外の物干し竿を固定するロープに足を引っかけて転倒した災害に対する、再発防止対策の事例です。夕方洗濯物を取り込もうとして暗くなりかけた時固定ロープが見えず、らくらくなって足を引っかけたもので、労働者の意見から、ロープの色を認識しやすい色のロープに変えた「見える化」対策の事例になります。

安全第一
グリーン
クロス君
～整頓しようよ!の巻～

倉庫の点検
始まるか!

点検! 点検!

なやむん! 台車が!

ながら歩きをしない
通路に物を置かない!

階段の二段目までは要注意!

階段も転倒事故の多発箇所です。特に階段を上るときでも下りるときでも、二段目までが転倒しやすい箇所といわれています。歩行のリズムが出来る前にバランスを崩して、つまずいたり踏み外したりして、転倒してしまうものと考えられます。また荷物を持った、足元の見えない状況も非常に危険になります。



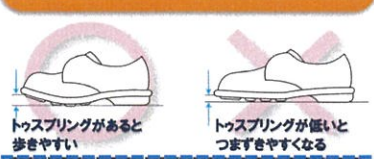
ここでも「見える化」実践中

上り始めと下りの最後の二段が危険箇所であることや、足元が見えづらい状態で荷物を持ったままでも、階段の残り段数がわかるように、階段の端部に段数を表示して「見える化」を実践している事業場もあります。また、階段の上下に視覚障害者誘導用ブロックを取り付けて、注意喚起や滑り止めの役目として設置したり、手すりの設置や左側通行を表示している事例もありました。



滑りにくい靴を選ぼう!

～靴選びのポイント～



トックスプリングがあると歩きやすい
トックスプリングが低いとつまづきやすくなる

屈曲性の良い靴は歩きやすい



柔らかい靴
硬い靴

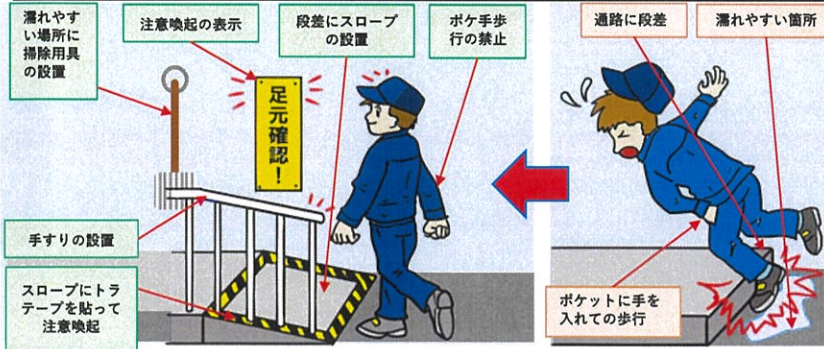
靴底が減っていませんか?



購入時の靴底
すり減った靴底

出来ることから少しずつ

転倒防止対策は、事業場ごとに対策は異なります。左の図は通路の段差を解消し、併せてそれまでの危険要因をわかりやすく対策している一例です。



水の硬さってどのくらい?

氷は温度が低下するに従って硬さが増します。ダイヤモンドの硬さを10とした場合、氷は最大7まで硬くなります。氷はかなり硬い石と同じ状態となり、透明度が高くなると硬さも増します。このような路面で転倒してケガをする重傷度も大きくなり、休業3カ月なんてケガもザラにあります。人手不足が常態化している中で、更に貴重な人材が減るのは、事業場としても大きな損失になります。「転んだ人が注意していなかった」とか「対策するのは難しい」と、事業場としての転倒防止対策を放棄しては、更なる負傷者が出る可能性もあります。災害が発生する前に、原因の把握と再発防止対策を検討しましょう。

編集後記

転倒防止新聞が昨年に引き続き、第二弾の発行となりました。転倒防止対策としては、たくさん伝えたいことがあるものの、コンパクトでインパクトのある内容とするところが、難しいと感じています。少しでも皆様方に役立つ情報を伝え続けたいと考え作成しております。(健康安全課)

骨折で骨に合金を入れた例

